地域といっしょに活動

各地域ブロックが、地域の活動とかかわりながら、さまざまな企画を開催しています。各地域のふるさとまつりなどにも参加しています。

吉敷ブロック＋吉敷地域交流センター

スイカ割り＆オリジナルゲーム大会

7月31日（月）吉敷地域交流センター

4年ぶりのスイカ割りに交流センターは朝からにぎやか。目隠しをして、その場でグルグル回ってから歩くので、竹刀がどこへ向かうかドキドキ。「みぎ！」「もうちょっと下がって！」周りの掛け声もだんだん必死に。赤くてあま～いスイカ、大好物の子はずーっと食べていました！

室内ではすごろくや折り紙、塗り絵、お絵かきなどのゲームをしました。手づくりの巨大すごろくは山口県の特色や学校のことなど、とてもユニーク。お誕生日のうたを歌ってもらえるマスや好きな給食を発表するマスなど、「こんなの初めて！」と、子どもたちはゴールを目指すのに夢中でした。

大殿ブロック＋おおどのコミュニティ協議会

夏のこどもひろば

7月26日、8月2、9、23、30日（水）大殿地域交流センター

夏休みの平日、子どもたちに自由にすごせる場所をと開催した「夏のこどもひろば」。おおどのコミュニティ協議会の助成をうけての実施となりました。

お盆をのぞく毎週水曜日の午後、計5回。定期利用団体である「ひろば」の協力を得て、ボードゲームをしたり、工作をしたり、クッブをしたりと、子どももおとなも思い思いに過ごしました。

8月23日には、子供の造形・絵画教室アトリエほびっとの楢松真実子さんを講師に、造形ワークショップも開催。それぞれの思う小さなジオラマづくりでリフレッシュ。

「ここにくれば、だれかにあえる」そんな理想の空間に、一歩近づけたかな。

番外編

流そうそうめん うちまくれ水でっぽう

9月17日（日）大歳地域交流センター

大歳まちづくり協議会主催「こどもイベントサポート」に、会員の子どもたちが申し込みました。子どもたちによるプレゼン、厳選な審査を経て、見事採択！そこからは、さらにアイデア出し、流しそうめん用の竹の切り出しなど、地域の方からもたくさんのことを学びながら、準備に準備を重ねて当日を迎えました。準備の中でできたキャラクター“水でっぽう戦隊ソーメンジャー”からの挨拶ではじまり、苦戦してつくったカーブ付きの竹での流しそうめん、ビシャビシャになった水鉄砲。子どもたち「やりきった！」と大満足の企画となりました。

子育て支援託児サポートシステム

アボカド・ベイビー

公演や講演会、学校行事など各種行事の開催時に、保育スタッフを派遣しています。

YCAM館内のキッズ・スペースでは、図書館開館日の午後、アボカドスタッフ（託児スタッフ）が常駐して託児をしています。

ほんのひとときではありますが、親も子も離れて過ごす時間のなかで、なにかを吸収して、また新しい気持ちでむきあってほしいな、と思っています。

ご利用方法など、くわしいことはホームページをご覧ください。

LineUp これからの活動予定

対象年齢 乳幼児 低学年 高学年

変更になることがあります。ご了承ください。

2024 舞台鑑賞会

ミスしゃっくりの幸せな一日《小心ズ》
3月16日（土）
山口市民会館 小ホール

The Gardener《小心ズ》
3月17日（日）
山口市民会館 小ホール

ふしぎ駄菓子屋銭天堂《人形劇団ひとみ座》
5月2日（木）
山口市民会館 大ホール

毎月1回 **いちにちプレーパーク開催**
次回は、12月9日（土）赤田神社

毎月第2火曜 **幼児クラブモコナ開催**
次回は、12月12日（火）吉敷地域交流センター

赤れんがだより

クリエイティブ・スペース赤れんがは
こどもステーション山口が指定管理者となっています。

12月16日（土）
チェンバロコンサート

こどもステーション山口は

子どもたちが文化芸術に親しんで、心ゆたかな子ども時代を過ごせることを願って活動しています。プロの舞台芸術に出会う舞台鑑賞会のほかに、キャンプやこどもまつりなど、たくさんの仲間といっしょに活動できる場をサポート。大人にも、”子どもと共に育ちあう”学習の機会を提供しています。また各地区ブロックでは、会員が地域のつながりを大切にしながら独自の楽しい活動を行っています。

こどもステーション山口 WEBサイト

https://kodomo-st.org

こどもステーション山口の新着情報、
さまざまな活動のレポートを紹介しています。

入会お待ちしています…舞台鑑賞会の入場料が無料です！

正会員　月会費2,500円（子どもの登録OK）
　　子どもの登録料（一人500円/年）
準会員　月会費1,300円（大人だけの参加）
賛助会員　個人会費：一口 5,000円/年
　　団体会費：一口10,000円/年

※寄付も随時、募っています。
※年間3,000円以上ご寄付いただいた方は確定申告により、税額控除が受けられます。

グッドガバナンス認証 2020G(0)0029

非営利組織の信頼性の証である「グッドガバナンス認証マーク」を山口県で初めて取得しました。（2020年12月認証）

《「支え人。」としてのご支援をいただいている企業》
■（株）メルシー　■リンドヴルム　■POLA Sweet

【こどもステーション山口の10月の会員】
正会員104人 準会員59人 子ども登録数201人 計364人

編集後記

■子どもの送迎をするのが当たり前になってる自分に、ふと違和感。集合早かったり、自分で行けない場所であることが多いからしかたない気でいたけど、それで済ませていいのかな。どう思いますか？意見求む。（カキタ）

■始まりは息子の夏休みのついで。「続いてるよ」と娘に話すと「おばあちゃんみたい」。それがYouTubeの完コピを目指すと意外とキレのよい全身運動だったのですよ。パソコン疲れに、ラジオ体操。（クラタ）

■子どもの成長は早いなぁと感じるけど、同じだけ自分も親も年をとってて、健診項目にない病気に思いがけずかかったり。イヤ～な言葉だけどまさに劣化、老化なのだろう。会えるのは年に2~3回だと、あと何回会えるのかなとか考える秋。（ナガタ）

YA!
［こどもステーション山口　広報紙］
2023年11月1日 発行
発行：認定NPO法人こどもステーション山口

ご意見・ご感想お待ちしています。
〒753-0047 山口市道場門前2-4-20国近ビル2F
TEL・FAX 083-925-1486 ✉co26station@yahoo.co.jp
OPEN 月～金10:00～17:00

さまざまな体験・たくさんのなかま…そんな出会いの中で子どもたちがいきいきと活動しているようすなどをお伝えします

YA!

あそぶ・かんじる・そだつ

vol. 113

こどもステーション山口

2023年11月1日 発行（年2回）
発行 / 認定NPO法人こどもステーション山口

たちどまってミルかんがえてミル
「だいじょうぶ」からはじめよう。1p-2p
西野博之講演会～プレーパークという居場所～レポート 2p
中高生グループ 3p
地域といっしょに活動 4p

キャンプで水鉄砲。両手をひろげてビシャビシャになった服を乾かしますが…。あっという間にまたビシャビシャ。

たちどまってミルかんがえてミル 第17回

ベンリだから、ラクだから、みんながそうしてるから…
そんな今を立ちどまって、いっしょに考えてみませんか？

「だいじょうぶ」からはじめよう。

不登校の件数が、年々過去最多を更新している。少子化といわれているのに、だ。
コロナをこえて、いじめの件数もまた増え始めたという。
子どもたちにとって、ここが居場所だと思える場所はどこにあるのだろう。

なにがあっても行くべきところだった学校は、行かないということも認められる場所になりつつある。

それでも、世間の目はまだまだ厳しい。
学校と家の往復が主になる子ども時代に、学校が苦しくなれば家にいるしかない。しかし、ほとんどの親にとって子どもは学校に行くものであり、頭では理解しているつもりでも、家にいるわが子を受け入れるには時間がかかる。なんで学校に行かないのかと言わずにはおれず、そうなると家も居心地が悪くなり、だからといって、子どもがいるはずのない時間に、外をウロウロするわけにもいかない。八方塞がり状態である。
不登校の増加は、そんな子どもが増えるということにもつながる。

そこで、国も動きだした。
2023年4月に発足したこども家庭庁では、「こどもの居場所づくりに関する指針（仮称）」を閣議決定し、これに基づいてこどもの居場所づくりを推進している、のだそうだ。異次元の少子化対策、という言葉もとびだした。令和6年度のこども家庭庁の予算請求額は、令和4年度の倍になるらしい。
たくさんの予算をつけて、子どもと、その子を育てる親の環境を、整えようとしている。

世の中は、おとなと子どもにわけられる。
おとなたちには、自分が子どもだったときの思い出が、それぞれにあるだろう。
どんな遊びがすきだった？
どんなところで、だれと遊んでた？
どんな場所がすきだった？
まるで昨日のことのように、うかんでくるのではないだろうか。

つい最近まで子どもだったのに、おとなになって、親になって、急に子どもを一人前に育てあげなければという重圧がのしかかる。
正しいほうに導かなければ。この子がまちがいのない人生を送るために。
そうしているうちに、だんだんとおとなはまちがえる。子どもの進む道は、おとなが作ってあげればいいのだと。正しいほうに誘導すればいいのだと。自分の思う正しさが、本当に正しいのかもわからないまま。
その結果、おとなは子どもを支配して、そして自分も支配していく。
まわりから、わたしは正しく見られている？
ちゃんとした親になれている？
悩みはつきないし、まわりの目も気になる。
みんなの前で、わが子が悪いことをしたら、叱るところをみせなくちゃ。
だって、そんなことも注意しない親だと思われたくないから。

→2ページへつづく

「だいじょうぶ」からはじめよう。

→1 ページから

お世話になったらお返ししなくちゃ。
いや、迷惑かけるくらいなら、もう関わらないほうがいいのかも。
そうやって、どんどん窮屈になっていく。
本当は、もっとラクにいたいのに。

「おとなのよかれは、子どもの迷惑」だと先日の講演会の講師 西野さんが言っていた。おとなの不安が、子どもの自信を奪うのだとも。
おとなと子どもしかいない世の中で、おとなは子どもに大きな影響を与える。
手をさしのべて、こうしたらいいんじゃないと手助けをする。その加減ですらむずかしい。さじ加減をまちがえると、それはまったく逆をむいてしまう。
子どもにあわせた、よい塩梅で。よい加減で。
おとなは、ただ少し長く生きているだけ。知っていることは多いかもしれないけど、だから子どもより偉くて、正しくいなくちゃいけない、なんてことはないと思うと、少しラクになれるかな。

まずは、肩の力をぬいてみよう。
そして考える。子どもの思いをふみにじっていないかということ。
言いたいことを、さえぎっていないかどうか。
言えない言葉もあると、想像できているかどうか。
子どもの目をみて、話をきいているかどうか。
本当は、気にするべきは、まわりの目ではないよね。
子どもの目を、しっかりみよう。
子どもの声を、しっかりきこう。
同じ目線で、ものをみよう。
あの子もわたしも、ひとりの人間であることを、忘れないようにしよう。

その目線にたったとき、ひとりのおとなとして、わたしになにができるのだろうかと考える。

居場所づくりにとりかかるのは、かなりハードルが高い。こども食堂のボランティアをする時間は、いまはない。そんなわたしにもできること。

だいじょうぶ、安心して、ちゃんとみてるよ。
そんなまなざしで、手の届く、まわりの子どもたちを見守ること。
ことばがしゃべれない赤ちゃんも、ひとりの人間。生意気盛りの中学生やおとなに近い高校生だって。ひとりではできないことがたくさんある小さい子ももちろん。

そんなことを思って、子どもたちを見守るおとながいれば、そこがきっと、それぞれの新たな居場所となる。
（カキタ）

西野博之 講演会～プレーパークという居場所～

9月24日（日） 山口市民会館 小ホール

講師 西野博之 さん
認定NPO法人 フリースペースたまりば理事長
川崎市子ども夢パーク、フリースペースえん 他、各事業総合アドバイザー

National Institution For Youth Education 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 「子どもゆめ基金助成活動」

体験の風をおこそう

「完ぺきや正しさを子どもに求め過ぎ」「親は先回りして失敗を防いでいる」さらりと発せられた言葉に思わずドキッ。長年子どもたちと真正面から向き合ってきた西野さんならではの「子どもの居場所」の話に、時間を忘れて聞き入ってしまいました。県内外からの参加者は子どもに関わる仕事の人や市の関係者、学生など多数。熱心に聞き入る様子に「子どもの居場所」への関心の高さが伺えました。

西野博之さんは、川崎市子ども夢パークの創設や川崎市子どもの権利に関する条例の制定などに関わり、近年では、映画『ゆめパのじかん』や NHK ドキュメント72 時間『“どろんこパーク”雨を走る子どもたち』の放送が大変な反響を呼びました。

子どもの時間が削られ、「やりたい」ことより「やらなければならない」ことが優先されている社会で必要なのは、ほっと、安心できる居場所です。そこでは「なにもしない」ことの保障が前提だそう。
子どもが居たいように居られる場所で、自分の自由な発想が大事にされていること。ルールは自由に作り変えられる柔軟さをもち、子ども自身の意思で参加・退場ができることが、安心できる居場所づくりに求められる要素です。遊びの中で得た「やったー！」「できた！」といった自己効力感（※1）や自己有用感（※2）が生きていく力を育んでいきます。「本来、子どもは失敗して、くやしさを受け止め、そこからしなやかに立ち上がる力を手に入れていくもの。安心して失敗できる環境づくりが子どもにとって必要。」と西野さんは言います。

夢パークでの昼食づくりの活動は、子ども食堂ネットワークへと発展しました。空腹や身なりなどサインは出ているのに SOS を言葉にせず、相談に来ない子どもには『発見する』という手段があります。子ども食堂などで子どもたちの胃袋をつかむと、ふと本音を語る子もいるそうです。
「ぼくをみて」「構ってほしい」の思いを不器用な形でしか表現できない子どもにどう向き合うか。「おとなは“めんどうくさい”を手放さない。関わり続ける覚悟をもつ」という西野さんの言葉は、子どもに関わるすべてのおとなたちに向けたエールのように感じられました。（ナガタ）

※1 自己効力感…目標を達成するための能力を自らが持っていると認識すること

※2 自己有用感…自分が誰かの役に立っていると思う感覚

2023 5月～10月 こんな舞台をみてきたよ

こどもステーション山口の舞台鑑賞会には
人形劇や舞台劇などいろんなジャンルがあります。

劇団仲間
給食番長 （低学年対象）
5月28日（日）山口市民会館 小ホール

毎日食べてる給食だけど、舞台の上ではいろんな事が巻き起こる。子どもたちからは「おいしそ～」。明日の給食が楽しみになりました。

- じぶんはきゅうしょくをおかわりをするけど人はいろいろすききらいが人それぞれなんだぁとおもいました。（会員小2）
- 表じょうが何通りあるのかと疑うほどに豊かで、すごいと思いました。（会員高1）

マリンバ・カンパニー
トリスタンとイゾルデ （高学年対象）
6月23日（金）24日（土）C・S 赤れんが

幾重にも重なるマリンバの響きや音色に驚き。マリンバが初めての人も音楽に詳しい人も満足のコンサートでした。

- 音の粒がこんなにもきれいに出るのかと驚いた。（一般 16 才）
- トリスタンとイゾルデの怪しい音、マリンバの深く柔らかな音で頭の中を打ち抜かれました。（一般）

演劇企画 オフィス・アートプラン
すてきな三にんぐみ （低学年対象）
7月17日（月祝）山口市民会館 小ホール

あの絵本がテンポよいお芝居になって、子どもたちはすっかりお話の中。公演前の子どもたちのあいさつ、セリフや衣装もバッチリ。

- 演技だけでなく歌やダンスもあり、とても楽しかった。ティファニーの言葉はどれも大切なことで改めて考えることができました。（会員 13 才）
- 本にはなかったところがあって、おもしろかったです。（一般 11 才）

スタジオエッグス
みんなdeらくご （低・高学年対象）
10月22日（日）山口県教育会館ホール

1 人で何役も演じる落語。わかりやすく楽しいお話で、何人もの登場人物の人柄まで、ありありと想像できました。子どもたちも大笑い。

- 2 回目の落語でこれが一番おもしろかったです。（会員 11 才）
- 上の子が先を予測して笑いはじめ、下の子は話を聞いて笑いはじめ、楽しかったです。

中高生グループ やまぐち子ども・子育て応援ファンド助成事業

お泊まりマンガパーティ

6月10日（土）・11日（日） 仁保の自然道場ふれあい広場

子どもが「やりたい！」と意見を言って、受け止められることは、子どもの本来持っている力を取り戻せる体験。
それが叶った一つ「マンガパーティ」。10 年以上前に、中高生の「マンガを好きなだけ読みたい！」からはじまったこの企画は、後輩に引き継がれて続いています。「何これ！面白い企画！」とうらやましそうな声をたくさん聞きます。
この 3 年は、中止か日帰りでしたが、今年はついに「お泊まりマンガパーティ」復活です。「早く寝なさい！」といつもは言われがちな子どもたち。この日だけは、自分の“好きなだけ”に挑戦（?）です。
「早く〇〇しなさい！」とつい言ってしまっている大人も、実はこの言葉に後ろめたさも感じているんですよね。“好きなだけ”ができるこの企画には、大人も気持ち良さを感じているのでは？

帰ってきたこどもキャンプ 2023

7月21日（金）・22日（土）・23日（日） 秋吉台家族旅行村

マンガパーティに続き、こちらも 4 年ぶりとなった 2 泊 3 日のこどもキャンプ。
中高生は、5 月下旬にキャンプ実行委員会を立ち上げ、下見に行ったり、役割分担を決めたり、何度も集まった怒涛の 2 ヶ月でした。こどもキャンプには小学 5 年生以上の子どもたちが参加します。2 回の顔合わせで友だちのことをちょっぴり知ってから、当日を迎えました。

中高生の肝いり企画、キャンプファイヤー。
火の女神から受け取った火を巫女が点火する。

キャンプ後日には「キャンプ終わった会」を開きました。再び集まった子どもたち。キャンプで楽しかったことは？という問いに「キャンプファイヤーが楽しかった」「花火がおもしろかった」「星を見たのがきれいだった」「肝試しがこわかった」と、友だちと過ごした夜の思い出がずらり。友だちと協力して、食事をつくりテントを張り、普段友だちとは過ごせない夜の時間を一緒に過ごし、さまざまな思いのめぐった 3 日間だったでしょう。

出張イベント

他団体とのイベントにも、運営・参加・出展しました。こどもステーション山口を知ってもらう機会にもなりました。

唄語日和 ワークショップ＆特別公演

9月16日（土） 秋吉台国際芸術村

伝統芸能『和妻』『小鼓』『三味線』『日本舞踊』『落語』のワークショップと舞台公演で初めての体験を楽しみました。

家族みんなのフェスタ

（公財）山口きらめき財団助成事業

10月9日（月祝）
萩市民館

手づくりでリール付き釣竿を用意して、魚釣りゲームを出展。

青空の下、みんなであそぼう！

県民活動リレーイベント （公財）山口きらめき財団助成事業

10月15日（日） 亀山公園ミニシアター周辺

県内各地で活動している団体との遊びと体験のつまったイベント。こどもステーション山口からは、いちにちプレーパークを出展。

おかし喰って ゲームする肝だ飯

9月10日（日） 大殿地域交流センター

タイトルに何個の企画が盛り込まれているか、わかります？ 5 時間半の間に全部やっちゃおうというんですから、なかなかの欲張り企画です。
まずは集まったら、持ち寄ったボードゲーム、カードゲームがずらり。これはトキメキます。知ってる子も知らない子もそれぞれやりたいゲームに集まってスタート。おやつ休憩も挟んで、盛り上がりました。夕食づくりはカレー班とシチュー班。こちらはマンガパーティでもキャンプでも経験済み。初参加の 4 年生は来年のキャンプの練習できたかな？ペロリとみんなで平らげたら、もう外は真っ暗。いよいよ肝だめしです。4～5 人のグループにわかれて暗い外へ。地図を見ながらミッションをクリアしていきます。おどかされても、何もなくても、怖くて楽しい肝だめしでした。
大人がたてる整った計画じゃなくて、やろーぜ！を組み合わせたらこうなった、の子ども企画。面白いですね。

0さいから3さいのための アートスタート

のんびりゆったりアートな時間

小さな頃から、文化にふれよう。
小さな頃から、感動体験を。

こどもステーション山口では
「0さいから3さいのためのアートスタート」として、乳幼児対象の舞台公演を開催しています。
お父さん、お母さん、おばあちゃん、おじいちゃんもいっしょに、家族みんなで楽しまれていますよ。
おウチみたいにカーペットの上で、リラックスして、たのしい世界へ。

ありがとう

マリンバ・カンパニー
0さいからの音楽会
6月24日（土）C・S 赤れんが
25日（日）宇部市文化会館（宇部友の会共催）

小さな子どもたちにも本格的なクラシック。子どもたちは、音楽を選びません。曲にあわせて、身体を動かしたり、クルクル回ったり。

- 初めての表情を見ることができよかった。（一般30 才）
- 大人もワクワクで、子ども達も自然と体がリズムをきざんでいて楽しい会でした。

とよたかずひこ 絵本ライブ
&お面づくりワークショップ

8月5日（土）C・S 赤れんが

絵本でおなじみのももんちゃんの作者とよたかずひこさんによる絵本ライブ。
穏やかな口調で、紙芝居や絵本の読み聞かせ。そして、大人にも子どもにまつわるお話を交えて語りかけてくださいました。

人形劇団プーク
きんぎょがにげた
8月27日（日）山口県旧県会議事堂

かくれたきんぎょをみつけて「いた！あそこにいるよ！」公演後は、ステージの仕掛けを見たり触れたり。いろんなきんぎょとなかよしに。

- 去年もアートスタートに行ったが、今年はとても夢中になって見ていたのが印象的だった。人形にさわれるのがとても良かった。（一般 40 才）
- 初めての人形劇で、息子もよく笑ってみてました。（一般 41 才）